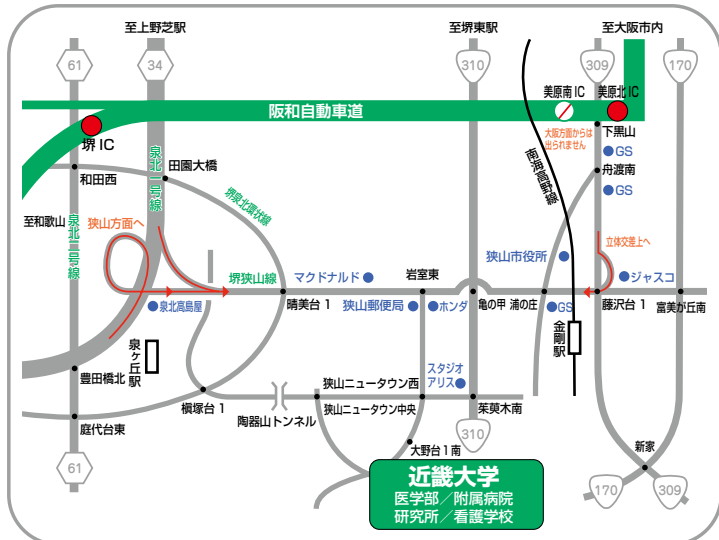
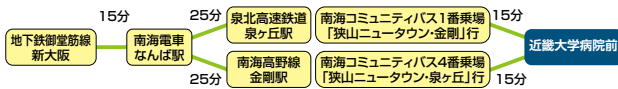
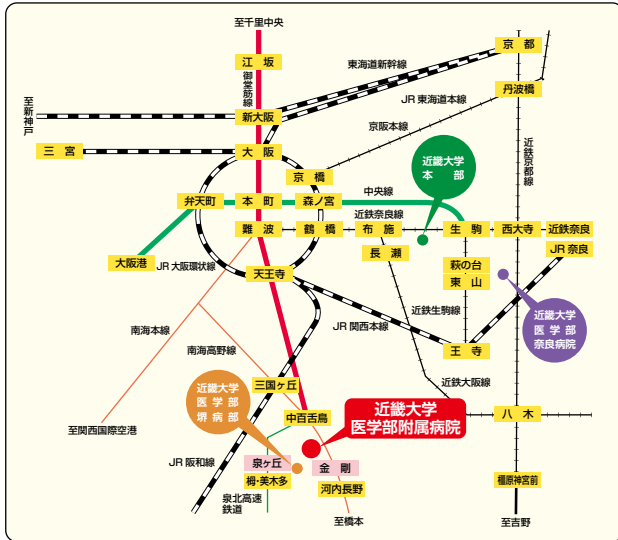


アクセス



各診療科のご案内

3F	産婦人科、小児科、眼科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、疼痛制御センター（麻酔科）、形成外科、歯科口腔外科、東洋医学診療所
2F	循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科、腎臓内科、神経内科、腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、メンタルヘルス科、外科(上部消化管、下部消化管、肝胆脾)、外科(肺)、外科(乳腺内分泌)、外科(小児)、脳神経外科、心臓血管外科、心療内科、漢方診療科、緩和ケア科
1F	整形外科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科

外来受付時間

平日	土曜	休診日
予約外又は紹介状をお持ちでない患者さま 8時30分～11時30分	8時30分～11時00分	日曜日・祝日 創立記念日(11月5日) 年末年始 (12月29日～1月3日)
紹介状をお持ちの患者さま 8時30分～14時00分		

※患者さまが当院での治療等を必要とされる場合、紹介医からの紹介状が原則となっておりますので、なるべく当院宛の診療情報提供書(紹介状)を持参頂きますようお願いいたします。

※初診時に紹介状をお持ちでない方には、保険外併用療養費として10,800円(消費税込み、平成26年6月1日より)をご負担頂きます。

※診療科によっては、完全予約制や休診日もございますので、詳しくは各診療科にお問い合わせください。

ノースモーキング ホスピタル宣言

健康維持・増進のために、タバコのない病院を目指します。
皆様のご協力を願います。
病院長



院内および敷地内は全面禁煙です。

入院される患者さまには、禁煙に関する同意書を記入していただいております。
皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

お知らせ

広報誌「きずな」のバックナンバーは、病院ホームページよりご覧いただけます。
アンケートもホームページ上で実施しておりますので、ぜひご協力をお願いいたします。

アドレス <http://www.med.kindai.ac.jp/huzoku/>

編集後記

近畿大学医学部 附属病院 広報誌「きずな Vol.12」をお届けします。近畿大学・附属病院で研鑽され、現在、各方面でご活躍されている卒業生の先生方、患者さまを地域で緊密に連携して診療していく施設、総合大学として医学部とともに生命科学を研究している学部をご紹介させて頂いております。患者さまの幸せが、近畿大学の幸せです。皆さまと地域力を高めていきたいと考えています。

今後とも、皆さまとのつながりを大事にする「きずな」をご愛読のほど、宜しくお願い申し上げます。

発行日/平成26年6月17日 発行場所/近畿大学医学部附属病院 編集/広報誌発行委員会 大磯 直毅



近畿大学
KINKI UNIVERSITY

近畿大学医学部附属病院

〒589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377番地の2 TEL (072) 366-0221 (代表) FAX (072) 366-0206

2014 June

Vol.12

近畿大学医学部附属病院 広報誌



救急災害センター



エントランス(1F)

X線TV室

〔理念〕

患者本位の開かれた病院として、安全で質の高い先進医療を提供します。

〔基本方針〕

1. 特定機能病院として、医学医療の進歩に関与し、社会に貢献します。
2. 教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。
3. 南大阪における基幹病院および救急災害病院として地域医療に貢献します。
4. 働きがいのある病院として、チーム医療と環境整備に努力します。



Contents

発刊にあたって P.1

最新News P.2

特集「食道がん」..... P.3・P.4

各診療科の紹介(心療内科・緩和ケア) P.5

各診療科の紹介(放射線治療科) P.6

基礎系教室の紹介(免疫学教室) P.7

薬剤部だより P.8

看護部だより P.9・P.10

医療安全だより P.11

栄養部だより P.12

特集「近畿大学 生物理工学部」 P.13・P.14

卒業生の今 P.15

連携病院だより P.16

事務部門だより P.17

患者支援センターのご案内 P.18

発刊にあたって

近畿大学医学部附属病院 病院長 工藤 正俊



近畿大学は最近マスコミに大変注目されています。

平成25年12月には、世界で初めて完全養殖に成功した近大マグロを提供する「近畿大学水産研究所銀座店」がオープンし、マスコミに大々的に取り上げられました。これは大阪グランフロントの第1号店に次ぐ2番目の店であり、連日予約がいっぱいで3ヶ月先まで予約が取れないといった盛況であります。また、近畿大学の受験者総数は、本年初めて日本一となり関東圏の大学以外では初めてのことであるということも大々的に報道されました。

このように近畿大学は学園全体としても現在、勢いにのっている状況ですが、病院におきましても平成25年12月1日より救急災害センターがオープンとなり、連日救急車や急患の患者さまの診療に大きな役割を果たしております。この救急災害センターは救急患者に特化した67床のベッドを有し、最先端の医療機器を備えた、西日本最大級の施設・装備を誇る救急災害センターです。このように南大阪の皆様方の健康を守るべく、日夜、救命救急センター、脳卒中センター、心血管センターや初期診療の先生方が頑張っておりまして、皆様方に安心していただける地域医療を提供できるものと考えております。

本号でも院内の様々な部署の活動を紹介しておりますので、ご参考にして頂きたいと思います。この冊子が皆様のお役に立てることを祈念致しまして、第12号の発刊のご挨拶とさせていただきます。

《受診される皆さまの権利》

近畿大学医学部附属病院では受診される皆さまが以下に掲げる権利を有することを確認し、尊重します。

1. 人間としての尊厳を尊重されながら医療を受ける権利
2. 病院全機能をあげて最善で安全な医療を受ける権利
3. 自らの心身の状態を理解するために当院から必要な情報を得る権利
4. 当院から必要十分な情報の説明を得た上で、自己の自由な意志に基づいて医療行為を決定する権利
5. プライバシーの保護を受ける権利
6. 必要に応じ、医療費用の内容に関する情報を受ける権利

《臨床倫理》

1. 医療を受ける人々の権利を最大限尊重するとともに、医療を受ける人々の最善の利益を追求する医療を提供する。
2. 医療を受ける人々の信条や価値観に十分配慮する。
3. 医療内容、治療の選択について詳しく説明し、医療を受ける人々の自由な意思に基づいて医療行為を決定する権利を尊重する。
4. 倫理的問題を含むと考えられる医療行為については、法令やガイドラインを遵守するとともに、院内において十分審議検討を行う。

最新 News

あたらしくなった救急災害センターでめざす“救急体制”

平成25年11月30日より救急災害センターがオープンしました。最新の免震構造を備えており、クリーンエネルギーである太陽光発電装置を採用して環境にもやさしい建物です。2階にはカフェテリアもありますので、みなさま、是非、いらしてください。新しいセンターでめざしている救急は、次のようなものです。

1 地域との連携

地域社会では、従来、救命救急センターが地域の3次救急施設として生命の危機にある重症患者ケアで長年、役割をはたしてきました。しかし近年、社会の高齢化により、脳卒中、心筋梗塞、消化管出血をはじめとして2次救急の重要疾患でも、今まで以上に役割を果たすことが求められています。大学病院の専門性を生かして、こうした救急ニーズにもこたえることをめざしています。その結果、従来に比較して救急搬入の件数も増加しています。



オーバーナイトベッドは、病態の分かりにくい患者さまを一晩経過をみるための病棟です。朝になれば、一般病床に転床したり近隣の医療機関にご紹介するというシステムで、地域連携を進めています。

1階オーバーナイトベッド前

2 人材養成

この地域に医療を担う人材を育成することは、たいへん大事なことです。センターでは、学生や研修医が、指導医のもとで、実力を養うことができる実習や研修を進めています。その指導医としては、救急の専従医だけでなく各専門診療科より医師が集まり、ひいては、卒業生の医師も協力して大学をあげて取り組んでいます。



毎早朝、前夜のケースに関して、写真のように振り返りを行います。このような振り返りは、研修医、学生にとって、実力を深める絶好の機会となっています。

3 チーム医療

救急を担う医師の不足は深刻です。新しい建物では、医師、看護師のみが救急を担っていた従来の体制から、様々な職種が力を寄せ合って、救急医療を担うチーム医療を推進しています。これにより、より安全な医療をめざしています。



救命救急センター医師、看護師、近隣の消防本部の救急隊員が中心となるチームとなって、東京駅丸の内口の地下1階スペースで開催された日本集団災害医学会主催の全日本メディカルラリー・チャンピオンシップに参画することができました。本選で第3位を獲得しました。

最後に、新棟ではアメニティに配慮して快適な空間を実現しました。たとえば、2階のカフェテリア前には、授乳室が備えられています。一般の方々も授乳やおむつ交換などに是非、ご利用ください。

特集 食道がん 特徴、症状、診断について

食道は喉と胃をつなぐ長さ25-30cmの管状の臓器で、口から胃へ食べ物を送る働きをしています。その食道の内面を覆っている粘膜から発生する食道がんは日本では半数が胸の中の食道中央付近から発生し、次いで1/4が食道の下部に発生します。わが国における罹患率は、男性はゆるやかに増加傾向で女性は横ばいです。60-70歳代に好発し組織型は扁平上皮がんが9割以上で、進行すると気管/気管支、大動脈、心臓などの食道に隣接する重要臓器を巻き込みます。さらに食道はリンパ流が豊富なためリンパ節転移をきたしやすいのが特徴で、粘膜下層までがんがすすむと約50%にリンパ節転移が認められます。危険因子として喫煙と飲酒、男性（罹患/死亡率は女性の約6倍）の3つが知られており、特に飲酒後、顔が紅潮される方の喫煙はより危険度が高いとされています。

■図1A 表在型食道がん



表層型食道がん

ヨード染色

■図1B 進行食道がん



2型進行食道がん

ヨード染色

食道がんに伴う症状としては、早期(表在型:図1A)のものの多くは無症状または少し胸がしみる感じがする程度で健康診断や人間ドックの内視鏡検査でみつかることがほとんどです。進行がん(図1B)になると表1のような特徴的な症状を呈してきます。

■表1 食道がんに伴う症状

胸の痛み	しみる感じ	焼ける感じ
飲み込みにくさ	食事のつかえ感	
声のかすれ	体重減少 など	

食道がんの診断方法には表2の検査が必要であり、それらにより総合的にがんの進行の程度(病期、ステージ)を決定します。

■表2 食道がんの診断に必要な検査

食道造影検査 (バリウム検査)	腫瘍の場所と長さ、狭窄の程度などを評価
上部内視鏡検査	腫瘍の広がりや厚み、硬さ、潰瘍の程度などを評価。ヨード染色やNBI(narrow band imaging)という特殊光を用いた微細な病変の観察。生検による腫瘍組織の採取とその病理検査。
CT検査	食道の隣接臓器(気管、大動脈、心臓など)への浸潤の有無やリンパ節・肺・肝・骨への転移の有無など腫瘍の進行度の評価。また抗がん剤の効き具合も同時に評価。
PET検査	がんの全身検索のため。CT検査では同定できない病変の検出やリンパ節転移などの評価。

治療について

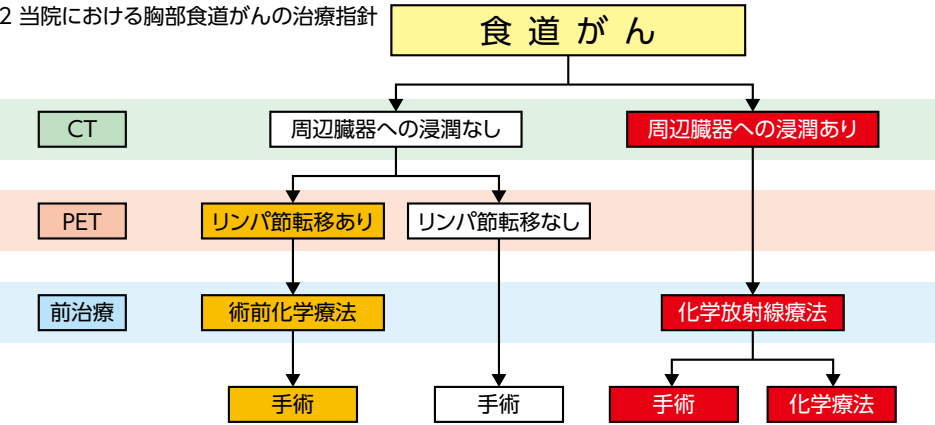
がんの進行度と全身状態からひとりひとりの患者さまに最も適した治療方針を決めます。食道がんの治療は大きく分けて内視鏡治療、外科手術、化学療法、化学放射線治療があり(表3)、進行がんではそれらの組み合わせによる“集学的治療”が行われます。

■表3 当院における食道がん治療の種類

内視鏡治療	ごく早期の粘膜にとどまるがんが対象で、点滴の麻酔のもと内視鏡的粘膜切除術(EMR)／内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行います。入院も数日～1週間以内と体に負担の少ない治療法です。
外科手術	消化器がん手術の中でも最も大きく手術時間は8時間前後です。全身麻酔下に右胸を開け、大事な神経や血管は温存しつつ食道や気管周囲のリンパ節と胸の食道を摘出します。次に仰向けで腹部と頸部の同時操作でリンパ節を郭清し、基本的に胃を細くして再建します(小腸や大腸を用いることもあり)。当院では手術の身体への負担を少なくする工夫として胸腔鏡や腹腔鏡を用いて比較的小さな傷で手術を行っています。術後の経過は集中治療室に2日間滞在した後に一般病棟に戻り、術後3日から歩行、7日頃より経口摂取を開始します。食事はゼリー形態から徐々に固形物にステップアップします。術後の合併症としては、出血、反回神経麻痺(声帯を動かす神経が一時的に麻痺すること)、誤嚥、肺炎、縫合不全(再建臓器とのつなぎ目がうまくくっつかないこと)、膿胸、リンパ漏、吻合部狭窄などがあります。
化学療法	術前や術後の補助的な治療として、あるいは肝・肺転移などを伴った高度進行がん、再発例などに抗がん剤を用いる治療法です。我が国では5FU+CDDP(FP療法)を用いるのが標準治療ですが、当院ではさらに1剤を加えた5FU+CDDP+DTX(DCF療法)でより高い治療効果を得ています。
化学放射線療法	粘膜がんなどの比較的早期のもの、また逆に食道の周囲の臓器を巻き込む進行がん、あるいは範囲が限局した再発の場合などに対して行います。放射線科と協力し、放射線照射に抗がん剤(5FU+CDDP)を併用して1回2Gyの25-30回照射(計50-60Gy)、5-7週間の治療期間で行います。治療効果は徐々にあらわれ治療終了から1-2か月後に効果が最大になります。副作用は皮膚炎、食道炎、肺臓炎、胸水貯留、心筋炎、心嚢液貯留などで、治療後何年も経ってからの晩期合併症が存在します。

当科における胸部食道がんの治療指針は図2で示すように、CTで周辺臓器を巻き込んでいない場合は手術が治療の基本ですが、PET検査によるリンパ節転移の有無で術前に化学療法を行うかどうかを決めています。一方、周辺臓器を巻き込むがんの場合にはまず化学放射線療法を行い、その後に切除するか化学療法に移行するかを決めます。肺・肝・骨などに転移がある場合は化学療法や対症療法が主体となります。また当院では根治切除後の補助療法としてペプチドワクチン治療を積極的に取り入れて良好な成績を得ています。(文責:牧野 知紀・安田 卓司)

■図2 当院における胸部食道がんの治療指針



心療内科・緩和ケア科



当科の起源は、近畿大学旧第4内科(呼吸器・アレルギー内科)の心身症グループにあり、中島重徳教授の指導のもと、主に喘息患者を中心として心身症の診療・研究に従事して参りました。1999年に近畿大学医学部堺病院の開院と同時に、診療科として「心療内科」を開設致しました。2013年4月からは、近畿大学医学部内科学腫瘍内科部門心療内科分野として当院に拠点を移し、心身症・緩和医療・サイコオンコロジーの臨床・教育・研究を幅広く行なっています。また、附属病院内では腫瘍内科と協力して、「心療内科・緩和ケア科」として診療に従事致しております。

心療内科では、「心身症」という病態(病状)を示す患者さまに対して、心身医学的なアプローチ「心身医学療法」を行っています。「心身症」とは、身体疾患の中でその発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的ないし機能的障害の認められる病態を指します。「心理社会的因子」とは、例えば性格(神経質等)や行動パターン(いつも他者に合わせてしまう等)、ストレス(配偶者の死、借金、仕事の忙しさ等)などが挙げられます。なお、神経症やうつ病などの病気は心身症からは除外されています。当科ではこの心身症を病態とする身体疾患を対象とし、スタッフは全員内科医です。「心身医学」は“病”を診るのではなく、“病をもっている人間”を診る、患者の心理社会的背景から取り巻く環境を含めて、患者が“病”とつきあひながら今後の人生をどのように生きていくか、心身両面からアプローチする学問です。

また、“病”に見舞われると、どこかが痛いというような身体的苦痛だけではなく、心理的な苦痛、仕事や経済面での社会的苦痛、そして自分の人生とどう向き合っていくかという実存的苦痛(スピリチュアルペイン)も加わります。このような苦痛が相互に関連しあって、「全人的苦痛(トータルペイン)」をもたらします。これらに対処するには、全人的医療を行う必要があります。その“トータルペイン”をもたらす代表的な疾患が「がん」です。今や、国民の2人に1人が一生で“がん”に罹患し、3人に1人は“がん”で命を落とす時代になりました。当科では、全人的医療に基づいてサイコオンコロジー(がん患者の全人的ケア)にも力を入れ、腫瘍内科と協力して緩和ケアの領域にも取り組んでいます。心身医療・緩和ケアともども、各科と連携しながら全人的医療を実践し、より良い医療を提供できますよう、努めて参ります。

(文責:小山敦子)

放射線治療科 (放射線腫瘍学部門)

放射線治療は手術・化学療法と並ぶ「がん」治療の三本柱の一つであり、医療テクノロジーの進歩により目覚ましい進化を遂げています。当院ではリニアックによる外部照射療法や密封小線源による組織内(腔内)照射療法を施行しています。私たちは安全かつ合併症の少ない効果的な放射線治療を患者さまに提供することを目指し、最新の放射線治療技術の活用についても研究しています。

2014年3月には放射線治療専用最新鋭の64列X線CT装置を導入しました。放射線治療計画のために専用のCT画像を活用することで強度変調放射線治療(IMRT)、定位放射線治療(SRS)、画像誘導放射線治療(Image-guided radiotherapy; IGRT)に代表される三次元または四次元の高精度放射線治療が速やかに正確にできるようになりました。

高齢化が進む日本では2人に1人が生涯で「がん」になると言われており、放射線治療の需要はますます高まっています。放射線治療科では放射線腫瘍医・診療放射線技師・医学物理士・看護師・事務職員など多岐にわたる職種の連携によるチーム医療を行っていますので、疑問点があればお近くのスタッフまで相談下さい。

(文責:金森 修一)



免疫学教室



免疫学教室は研究棟Iの6階にあり、北側のエレベーターホールからは、天気良ければ生駒山、東大阪市役所、あべのハルカス、大阪市中心部の高層ビル群、堺市沿岸部のコンビナートの煙突、そして大阪湾を越えて六甲山系の山並みを見渡すことができます。

教室の研究テーマは、エイズウイルスやインフルエンザウイルスに対する抵抗性のしくみを探ることで、エイズ研究については長年にわたって厚生労働省から研究費を受け、本学だけでなく京都大学・東京医科歯科大学・長崎大学などの研究者から成るチームを統括しています。また、インフルエンザウイルスについても他大学及び企業との共同研究を続けており、鶏卵に頼らない細胞培養ワクチンの実用化にも貢献しています。更に、神戸市保健局による無料匿名エイズ検査や、夜間性感染症検査と相談にも協力しています。

教室のメンバーは出身地が多彩で、中国で医学校を卒業し山形大学で博士号を取得した研究員が在籍する他、海外からの留学生や訪問者も多く、かなり怪しい「標準語」に河内弁、三河弁、九州弁などが入り交じり、スペイン語訛り、ウェールズ語訛りの英語も飛び交います。

グルメ志向の教室員が多く、年に何回かワインパーティを開く他、毎朝豆から挽いたコーヒーの香りが漂います。最新の研究設備と明るい笑い声が同居した、元気な教室です。

(文責:宮澤 正顕)

今回は、 服薬指導業務について 紹介いたします。

服薬指導は医師の依頼に基づき患者さまへお薬の効果・副作用・飲み方をお伝えし、薬物療法を円滑にするために行っています。患者さまご本人への説明だけでなく、お薬を管理するご家族へ説明することもあります。お薬の情報を伝えることだけでなく、お薬を使用していて効果はどうか・副作用は見られていないか・飲み間違いをしていないか・薬に対する不安はないかなどを確認やもともと内服していた薬との飲み合わせの確認をすることも同時に行っています。また、患者さま・ご家族とお話をして得られた情報を医師・看護師と情報共有することでよりよい薬物療法の提供ができるよう努力しています。

このように服薬指導を行うことで患者さま・ご家族にお薬に対する安心・安全をお届けできるように努めています。お薬に関することで疑問や不安がある場合にはお気軽にお声掛けください。疑問の解決や不安の軽減ができるように説明等の支援をさせていただきます。

(文責:伊藤 武)



看護部だより

優しさのある
心あたたかい看護

看護師は、各科病棟、救急災害センター、中央手術部、各科外来、中央放射線部、透析室、がんセンター、通院治療センター、光学治療センターにおいて、患者さまによりよい看護の提供に努めております。
今回は、75病棟を紹介いたします。

病棟紹介
75病棟

眼科・神経内科・メンタルヘルス科の3科混合病棟で、スタッフは看護師、診療補助員、病棟クラークの41名で日々の看護に携わっています。
入院件数や手術件数が多く繁忙な状況もありますが、相手を尊重し、優しさ・思いやりの気持ちを忘れず、患者さまが安心して入院生活を送れるよう一丸となって頑張っています。

看護長からの一言

病棟に関わる多職種の方々と協力し患者さまのことを考え、思いやりを持って温かみのある看護を提供することを目指しています。
(文責:中村 理佐)



看護部だより

専門・認定看護師

当院には、スペシャリストナース(専門看護師)7名、エキスパートナース(認定看護師)15名がそれぞれの分野の役割を果たすべく日々活動しております。
今回は、感染管理認定看護師を紹介いたします。

感染管理認定看護師の紹介



感染管理認定看護師は、患者さまやご家族、病院で働くスタッフなど、病院内すべての人々を感染から守る役割があります。
ニュースなどで耳にする「院内感染」ですが、病院では抵抗力が落ちて感染症になりやすい患者さまをはじめ、様々な病気を持った方が多く入院されています。
入院・外来患者さまや、ご家族、そして病院で働く職員を「感染」から守れるようまた、感染が拡大しないよう日々、活動をしています。
また、患者さまに関わるすべてのスタッフが適切に感染対策を行えるよう、病院内の環境を整えたり、研修会や院内巡回を行ったりして、他部署のスタッフとのチームワークを大切にしながら日々奮闘しています。
困難なこともありますが、他職種や部署と連携しながら、みなさまから頼られるような感染管理活動をしていきたいと思います。
(文責:三五 裕子)

〈専門看護師分野〉

- がん看護
- 家族看護
- 感染症看護
- 在宅看護
- 急性・重症患者看護

〈認定看護師分野〉

- 緩和ケア
- 集中ケア
- 皮膚・排泄ケア
- 新生児集中ケア
- 慢性心不全看護
- 救急看護
- がん性疼痛看護
- がん化学療法看護
- 脳卒中リハビリ看護
- 感染管理

医療安全だより 「医療の質・安全について」

近畿大学医学部附属病院安全管理部医療安全対策室です。

新年度を迎え、近畿大学医学部附属病院も新しい仲間を沢山迎えることになりました。

新しい仲間を迎えることは、病院の中に流れ込む新鮮な息吹に心が沸き立つ反面、

若葉マークの医療スタッフが教官とともに活動を開始する時期でもあります。

我々医療安全対策チームは、彼らが患者さまに迷惑をかけることなく一人前になるのを影から支える役割も担っています。

そこで今回は、患者さまとともに新人スタッフの皆さんにも、医療安全チームについて知っていただきたく思い、

医療安全対策室の基本である、医療の質と安全について気持ちも新たに紹介させていただきたいと思います。

1 医療の質と安全について

医療行為は、多くの複雑な作業を多職種で行うチーム作業です。しかし、“人は誰でも間違いを起こします”。医療事故は、十分に訓練を受けた人間が、いかに善意を持って懸命に行っても起こります。当院は1000床規模の大型病院ですが、1年間医療行為を行いますと、事故に至らなかった未遂事故（インシデント）報告は年間6000件前後あります。我々の一つの目標は、この軽微な事例をできるだけ多く集めて分析することで、大きな事故を未然に防ぐということにあります。一方、治療を要するような事故報告はそのうち約1割を占め、比較的重篤なものは、そのうち年間50件程度認めます。このことを常に認識し、医療事故をゼロにすることは困難でも、そこに近づけていく努力をすることで、患者さまに十分な安心を提供できるよう努力をしています。そして、医療事故のどこに原因があったのかという視点で、個人の責任ではなく、組織の問題としてとらえることで、医療の安全文化の向上を目指します。



3 医療事故から学ぶために

各部署から報告された事例は、緊急性と重大性に応じて分類し、分析と対策検討を行います。分析された事例については、緊急で医事対策を講じる会議（緊急医事対策委員会）から、内部の専門家を集め調査検討する会議（内部調査委員会）、外部の有識者を招き行う調査（外部調査委員会）まで、さまざまな形で検討・対応策を講じています。



2 医療安全対策室について

病院長直属の組織として、安全管理部があり、その中の感染対策室、褥瘡対策室、個人情報対策室とともに医療安全対策室があり、医療安全対策室長1名、副室長2名、医療安全専任看護師1名、看護スタッフ2名が配置されています。医療安全に関する重要案件は、関係部署の所属長が名を連ねる病院の最高決定機関である安全管理委員会で討議され、方針が決定されます。また、各診療科や部署から医療安全担当者（リスクマネージャー）が選出され、医療の質向上と安全管理について、定期的に会議を開き現場との情報交換を行っています。また、緊急事態には、昼夜を問わず24時間対応しています。



4 現在の取り組み

医療事故の反省から、事故の背景には医療者間のコミュニケーションエラーが存在することが明らかになっています。このコミュニケーション技術の改善を主目標に、当院では、米国を中心に行われている医療組織改革プログラムであるTeamSTEPPS（チームとしてのより良いパフォーマンスと患者安全を高めるためのツールと戦略）活動を全職員対象に全国に先駆けて行っています。

当院では、この活動以外にも多くの医療安全活動を行っており、順次ご報告申し上げますとともに、これからも医療の質の向上と安全の担保に全力を尽くしてまいりますので、ぜひとも見守っていただきたいと思います。



（文責：医療安全対策室長 辰巳陽一）

栄養部だより

病棟担当栄養士を目指しての取り組み

管理栄養士の病棟担当制を目指し、一部の病棟から先行して取り組みを進めています。

結果、病棟のカンファレンスにも参加でき、得られた情報を栄養部内に持ち帰り、より良い食事提供に役立てています。

外科病棟担当

90・95病棟の外科病棟に病棟担当栄養士を配置し、食べる量が減ってきた患者さまや、術前の化学療法の副作用により食事量が少なくなっている患者さまを訪問し食事内容の聞き取りを行っています。また経腸栄養管理中の患者さまの下痢などの症状やその他の栄養面の問題について情報交換をした上で、食事内容の調整や栄養管理について提案を行っています。上部・下部消化管術後患者の術後の食事再開に合わせて食事内容を説明し、退院前には退院後の食事についての栄養指導を実施しています。

内分泌・代謝・糖尿病内科病棟担当

糖尿病を中心に、必要であると思われる方を対象に栄養相談を入院中に1～2回実施しており、食事療法のポイントを説明したり、自宅での食生活を振り返っていただき、食事療法の実践につなげていけるように提案しています。また、以前から外来で集団教室を実施していましたが、昨年10月より47病棟で入院中の集団教室も開始しました。個人指導と合わせて参加していただくことで、理解が深まったり知識の確認になったりと、患者さまからご好評いただいております。

循環器内科病棟担当

100病棟は循環器疾患が多く、減塩食を提供している患者さまには入院後早期にベッドサイドにお伺いし、食事内容の説明、減塩が必要な理由、調理の工夫点等をお伝えしています。また、入院前の食生活を振り返り、塩分を過剰に摂取しているポイントを患者さまやご家族と検討し、退院後の生活に向けての「具体的な提案」をしています。

（文責：渡辺 紗弥佳）

病院食のご紹介 ～季節や行事に合わせた食事を提供しています～



十日戎の自家製お多福かまぼこ



ひな祭り



春分の日



食事につけているメッセージ

季節や行事に合わせて、お食事に栄養部から患者さまへのメッセージをつけています。それに対しまして、あたたかい励ましのお言葉もいただいております。この紙面をお借りしまして、御礼申し上げます。

野菜の洗浄 下処理



害虫や異物の有無を確認し、洗浄する。2～4回洗浄



使用する器具は全て使用前にアルコール消毒

下処理専用の容器に入れる。

調理作業



切裁から始まります。



大量調理では、大きな回転釜を使用します。

治療食コーナー



糖尿食・腎臓食と、治療食ごとに作成しています。

盛付作業



作成人数分のみ盛付ます。

米飯や粥の盛付



1個1個、計量します。



特集

近畿大学 生物理工学部

理学・農学・工学・医学の融合による新たな学問分野
6学科でめざす「生物メカニズムの工学技術への応用」

これまでそれぞれの分野で研究されてきた理学・農学・工学・医学の4分野を融合させたオリジナルな研究分野をつくり出した生物理工学部生物が長い年月を経て手に入れた優れた機能とメカニズムを研究・解明し、先端技術に応用してきました。

これからはさらに時代のニーズを考え、「食の安全と安定供給」「高齢化社会における医療と福祉」「人間の機能や感性を考慮した住み良い環境づくり」などをクローズアップし、より暮らしや環境に役立つテクノロジーの開発をめざして、基礎から応用分野におよぶ研究・教育を展開します。

生物工学科 ゲノム情報に基づくイネの遺伝的改良



植物育種学研究室
教授
加藤 恒雄
Tsuneo Kato

●研究概要

農作物、特にイネを対象として、その光合成産物の貯蔵器官であるシノクスの能力に関してゲノム情報に基づいた遺伝的改良を行い、多収性および品質向上に寄与しています。



イネにおける粒大の遺伝

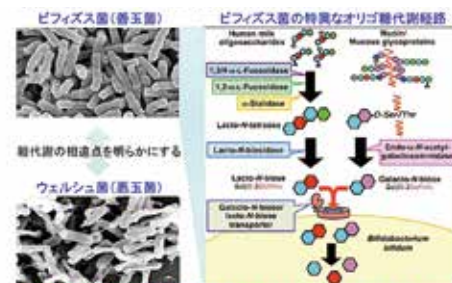
食品安全工学科 食品による腸内細菌・腸内環境の制御技術の開発



食品免疫学研究室
教授
芦田 久
Hisashi Ashida

●研究概要

腸の健康が、全身の健康や寿命に深く関わっていることが示唆されています。腸内細菌のバランスを整え、腸の健康や免疫機能を促進する食品微生物や食品成分を明らかにすることを目的として研究しています。



遺伝子工学科 炎症性疾患の新規バイオマーカーや治療法の探索



機能材料工学研究室
講師
永井 宏平
Kouhei Nagai

●研究概要

関節リウマチなどの自己免疫疾患、肥満や高血圧などの生活習慣病、そしてがんなど、近年、多くの疾患の背後に「慢性炎症」が存在し、病状を悪化させていることがわかってきました。本研究室では、慢性炎症を抑制する機能性食品の探索や自己免疫疾患の新規治療法や診断マーカーの探索・評価を行っています。

システム生命科学科 陽電子断層画像(PET)を用いた診断手法の構築



生体システム研究室
教授
木村 裕一
Yuichi Kimura, Ph.D.

●研究概要

医用画像手法の一つである陽電子断層画像(PET)は、生体の機能を定量的に画像化できることから、がんや痴呆の診断に応用されつつあります。本研究室では、PETを用いた画像診断システムや、その開発に必要な動物実験システムの研究開発を行っています。

医用工学科 開心術の安全性向上を目的とした医学シミュレータの開発と応用



臨床工学研究室
助教
徳嶺 朝子
Asako Tokumine

●研究概要

産業界のみならず医療においても、安全性の確保は絶対条件です。診断・治療を自由に選択できる現在、安全な治療・手術が求められています。医療従事者にも「安全・確実」な手技操作が求められます。私たちは、安全教育の観点から、医学シミュレータの開発し、そのシステムを使用した客観的な評価から、効率の良い医学教育手法を研究しています。

人間工学科 人間を支援するロボットの開発研究



人間支援ロボット研究室
准教授
北山 一郎
Ichiro Kitayama

息でパソコン「呼気マウス」

呼吸には「吸う」と「はく」があり、いうまでもなく人間にとって非常に重要な機能です。生物理工学部人間工学科では、これらの強弱を認識することで、パソコン上のマウスを上下左右に動かし、また、軽く「プツ」という形で吹くと「右クリック」、軽く吸うと「左クリック」を実現した呼気によるマウスを開発しました。障がい者のパソコン操作やトレーニングの他、一般的な機器にも利用できないか研究と改良を行っています。



パソコンにセットしたシステム全体



呼気マウス本体



呼気マウスによるパソコン操作

卒業生の今 しんやしき産婦人科

当院は「教育病院として、人に愛され、信頼され、尊敬される医療人を育成します。」を基本方針の1つとし、医育機関としての役割も担っています。
大学・病院で研鑽され、現在、各方面でご活躍されている卒業生の先生をご紹介します。
第5回は昭和55年卒で、堺市東区で開業されている 新屋敷 康 先生です。



新屋敷 康 先生

ありますが、困ることなかならうと思えるようになってきました。振り返るにこの職業に就けたからのことかと。自分の運と私の人生に関わっていた人、物に感謝しつつ人生を味わっております。

「最近思うこと」

堺市北野田の地で開業して18年を過ぎお陰様で充実した仕事をしました。

このごろ論語、老子、荘子から仏教、キリスト教の思想に関心が向くようになりました。以前より精神世界に興味があったのですが、仕事柄なのかさらに深く思えるようになったのでしょうか。紙面都合にて多くを語れませんが、例えば「情けは人の為ならず」と言いますが、人の為でいいと思えるし、西郷隆盛の「命もいらねば、名もいらす、ましてや金や地位もいらぬこのような人は始末に困る」と言う文



診療受付時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 9:00～12:00	○	○	○	○	○	○	休
午後 5:00～7:30	○	○	○	休	○	休	休

休 診 日：日・祝日、木・土曜午後
1ヶ月健診：PM 1:30～予約制
面会時間：PM 2:00～PM 8:00(全日)

連携病院だより

当院に受診いただいている患者さまの多くは近隣の医療機関からの紹介でお越しいただいています。また専門的な治療が終了したり、ある程度病状が落ち着けば、紹介元の医療機関に紹介させていただいたり、継続して入院が必要であれば病状に応じた医療機関に転院していただいています。患者さまに必要な医療を適切な医療機関で受けていただけるような緊密な連携を行っています。



医療法人宝生会
PL 病院
大阪府がん診療拠点病院
臨床研修指定病院

〒584-8585 大阪府富田林市新堂2204
TEL 0721-24-3100 FAX 0721-25-9405
URL <http://www.plhospital.or.jp>



PL病院は『人生は芸術である 医療もまた芸術である』を設立の理念とし、昭和31年11月1日の開設から現在に至るまで富田林市を中心とした地域の医療に貢献されています。診療科数23科と病床数370床を備え、時間の経過とともに細分化する地域医療のニーズに応えながら平成18年には新病院を開設し、次いで平成22年にはICUそして平成24年には血液病センターやIVRセンターを順次整備されました。

またPL病院と当院とは富田林市、大阪狭山市と所在地が隣接しており、病院間での患者さまのご紹介に加え医師や医療スタッフの交流も行われています。平成25年の実績ではPL病院より約770名と近畿大学医学部堺病院に次いで多くの患者さまをご紹介いただき、また当院で一定の治療を修了された方の外来診療の継続等で当院からご紹介させていただいた患者さまも約500名にも上り診療機能に応じた医療連携を行っています。



PL病院外観

PL病院からのコメント

PL病院と近畿大学医学部附属病院とはスタッフの交流機会も多く、あらゆる科において緊密な連携をとり患者さまを紹介させていただいております。また当院へも毎年、様々な科より数多くのご紹介を承っています。

今後も患者さまが安心して、治療や療養に専念できるよう、地域医療の充実に尽力させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



エントランスホール

事務部門だより

医事業務課

医事業務課は、各診療科受付・初再診受付・外来計算・入院計算・入院センター等の業務を行っており、総勢150名体制の組織となっております。今回はそのなかで、入院担当グループの業務に関する部分を紹介させていただきます。

医事業務課の入院担当グループの主な業務は、入院に関する会計、健康保険組合等への診療報酬請求業務、厚生労働省へ毎月提出する診療データの作成、病院の運営・収入に関わる各種統計資料作成等となっております。

医事業務課といえば、どうしてもお金の話ばかりを皆さん想像されますが、最近の診療報酬は、医療の質を表わす指標にも使われています。

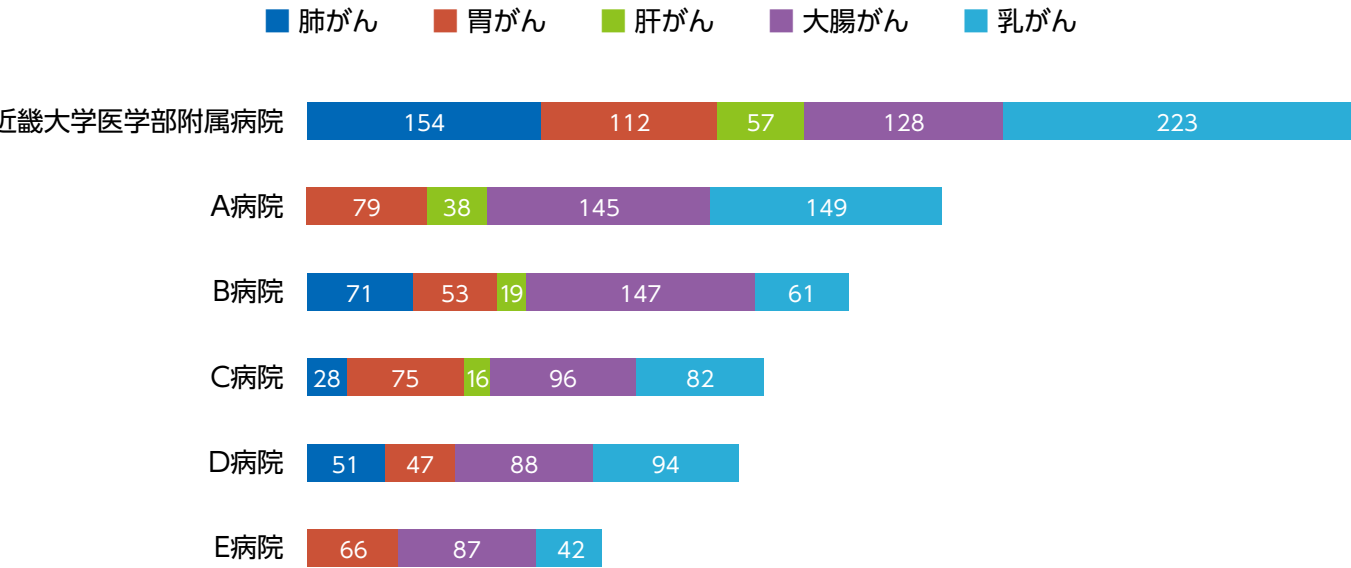
例えば、新聞雑誌等で最近よく見られる手術件数ランキングなども診療報酬をもとに集計されますし、厚生労働省へ毎月提出している診療データを国が集計し、集計結果をホームページへ公開していますが、そのデータをもとに地域での病院ごとの患者数等も出せるようになっていきます。例として、大阪南部地域における5大がんの手術ありの患者実績を下記に添付します。

下記グラフを見て頂いてもわかるように、近畿大学は、大阪南部地域でのがん治療の拠点として多くの実績をもち、がん医療において高い質を維持しております。

これらのデータ分析は、医事業務課に「診療情報管理士」といった診療データの分析を専門とする資格をもったスタッフを集めて行っております。今後は、会計や診療報酬請求に関する業務だけでなく、このような診療の質を患者さま目線で公開していくことを目標に、医事業務課入院グループは取り組んでいきます。

(文責:医事業務課 生田 勝也)

大阪南部地域(堺・南河内・泉州医療圏)国・府がん拠点病院実績(400床以上)
5大がん手術あり症例(平成24年1月~12月)



(厚生労働省、平成25年度第7回診療報酬調査専門組織・DPC評価分科会、DPC導入の影響評価に関する調査(参考資料)より)

患者支援センターのご案内

患者さまの療養生活にまつわる様々なことに対応する総合相談窓口として、他機関や地域そして社会との連携の架け橋となるのが患者支援センターです。

患者さま・ご家族・地域の開業医の先生や医療機関、介護施設や介護事業所の方々そして院内のスタッフからのご相談やご依頼をお引き受け致します。患者さまとの信頼関係を大切に受診される皆さまの権利を守っていきたくと考えております。

医療相談

- 医療費制度・費用に関する相談
- 公費負担・労災・交通事故等の手続き
- 苦情等
(患者様相談窓口併設)
(肝疾患相談支援センター併設)

福祉相談

- 医療費等経済的な問題
- 社会保険・社会福祉制度について
- 心理的問題 ●社会復帰等

療養支援

- 在宅での看護ケアの継続
- 介護保険の申請やサービスの調整
- 訪問診療医や転院先の選定
- カンファレンス開催等

医療連携

- 診療の予約
- かかりつけ医選定
- がんセカンドオピニオン等



受付時間

月~金 9:00~17:00
土 9:00~12:00

患者支援センターの場所



《個人情報保護について》
個人情報保護について近畿大学医学部附属病院では患者さまの情報の取り扱いに万全の体制で取り組んでいます。
1. 個人情報の利用目的について当院では、患者さまの個人情報を診療・教育などの目的で利用させていただいております。これら以外の目的で利用させていただく必要が生じた場合には、改めて患者さまからの同意をいただくことになっておりますのでご安心ください。
2. 当院では、患者さまの個人情報の開示・訂正・利用停止等につきましても、「個人情報の保護に関する法律」の規定に従って進めております。